

本編

第 1 章 はじめに

(1) 背景

上士幌町では、過疎化、高齢化に伴う町の活性化が希求される中、健康・観光・環境をキーワードにイムノリゾート（免疫保養地）上士幌を標榜し、これまでにスギ花粉リトリートツアーを開催するなど健康や癒しに配慮した取組みを始めている。

都市に住む団塊の世代が持つ様々なニーズや悩み、不安を受け入れ、それらを癒し、解消させるための受け皿となるような大自然や景観が上士幌町にはある。イムノリゾートを標榜する上士幌町として、都市住民の「こころ」と「からだ」の健康増進、回復の場となることで、上士幌町の社会的役割を担うことができると考える。

また、平成 17 年度より二地域居住促進に向けた調査を開始しており、移住者のライフスタイルへの対応や段階的な移住促進のために季節限定の移住として二地域居住を促進する方針について検討し、移住希望者や既に移住されている方へのアンケートやヒアリングを重ね、移住への悩みやニーズを把握し、受け入れの体制を整備するとともに、グランドデザイン、行動計画を作成した。

平成 19 年からの団塊世代の大量退職を控え、彼らのその後の生き方・暮らし方について注目されている。今が、都市住民の新しい生き方・暮らし方のニーズと、町の取組みをマッチングさせる絶好のタイミングである。

(2) 目的

ア ライフスタイルとしての二地域居住の可能性検証

二地域居住は、都会でのこれまでの生活を維持しながら、農村にも生活の拠点を持つというライフスタイルである。都市部に住む団塊の世代を中心とした層に対し、退職後のライフスタイルとしての二地域居住の可能性について、生活の志向や経済的な面等から検証する。

イ 上士幌町での二地域居住定着に向けたバリアーの把握及び対応策の検討

上士幌町が北海道での二地域居住の先進地となることを目標に、生活体験モニターを通して参加者側のニーズの把握や受け入れ側のソフト・ハード整備に関わる課題を把握する。例えば、受け入れ側の居住地や現地での移動手段、必要経費等に関わる問題点、また現地での農業体験や自然体験、地域活動など上士幌町ならではのライフスタイルについての可能性やさらに首都圏への情報発信や集客の方法など、本格的な立上げ前における課題を把握・分析し、円滑な事業化に向けた対応策を検討する。

ウ 受け入れ及び送り出し体制づくり

(ア) 本格的な受け入れ体制にむけた準備のための暫定受け入れ体制の整備

受け入れから生活全般にわたる相談を受け付ける窓口・相談業務(コンシェルジュ)のサービス内容の検証や体制整備の確立が急務である。上土幌町での体験メニュー作成や民間受け入れ団体によるサポート体制の組織化を行う必要があり、本調査においては暫定的な施策及び体制の整備を行うことにより、将来的な受け入れ体制の始動に向けた準備を行う。

(イ) 都市住民と上土幌町とのマッチング手法についての検証

潜在的なニーズを持つ都市住民と上土幌町との出会いの場を提供する協力者として、民間企業に参画してもらい、両者をつなぐためのマッチングの手法について検証を行う。

これまでの移住・二地域居住の取組みは、受け入れ側による地域の魅力の情報発信を通して都市住民を募集する形で行われてきたが、本調査では都市部に特定の協力団体を確保することにより、そこと連携して都市住民の受け入れを行う。

第2章 実施地区の概要

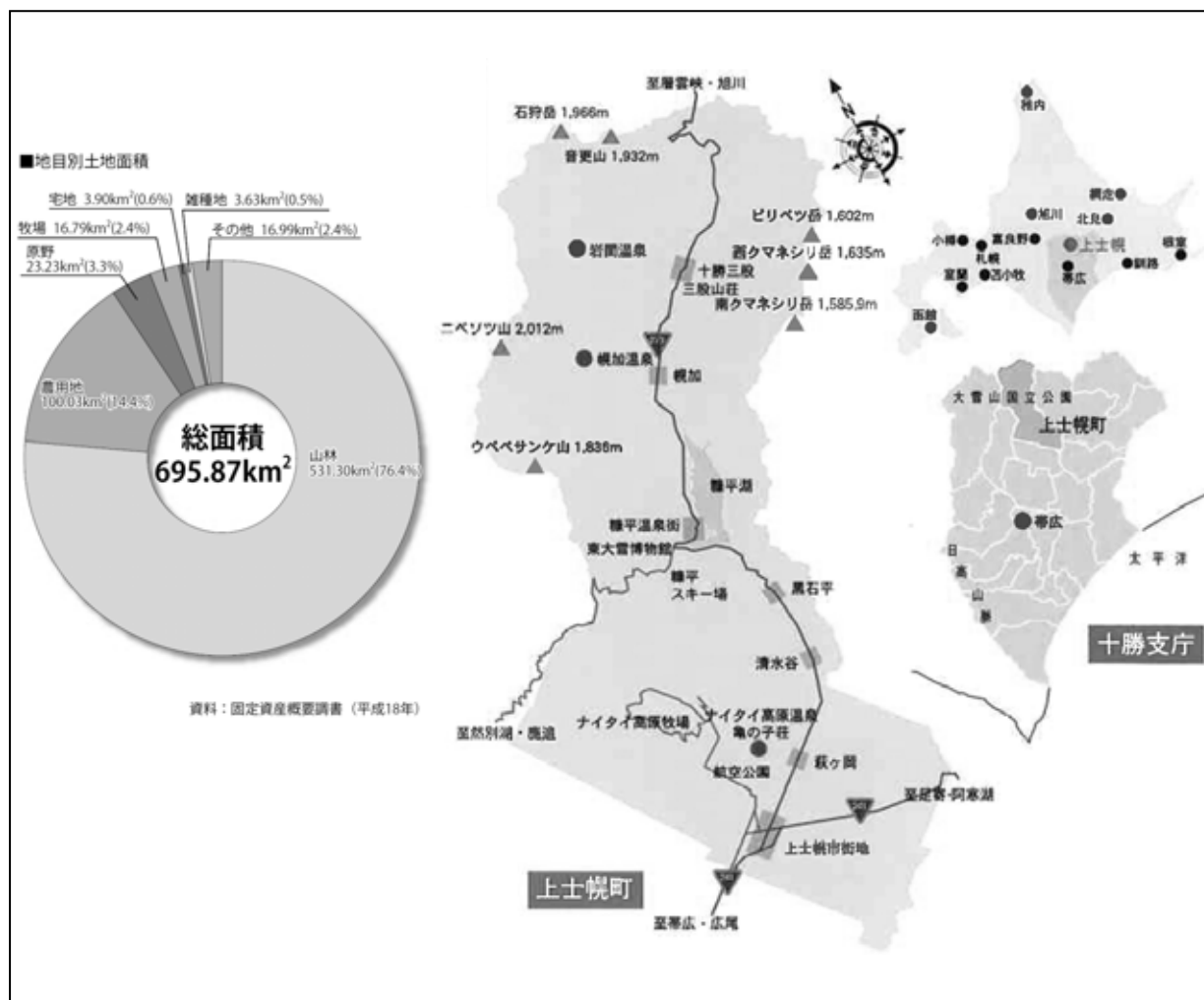
1. 上士幌町の概要

ア 上士幌町の地勢

上士幌町は十勝平野の北端に位置し東西 18.2 k m、南北 48 k m と南北に長い地形の町で、面積 695.87 k m²、その約 76% が森林、約 14% が農地の農業と林業を基幹産業とする町である。また、糠平温泉などの温泉と、スキー場、豊かな自然を背景とした観光の町でもある。

【上士幌町の地勢】

面積	総土地面積：695.87k m ² (耕地面積：116.61k m ² 、林野面積：533.97k m ²)
----	---



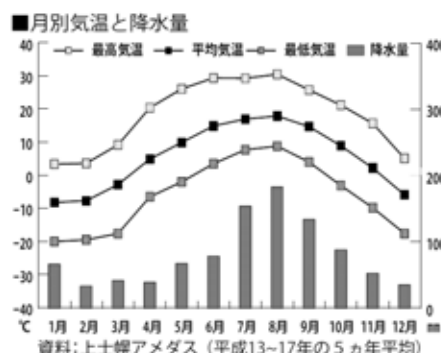
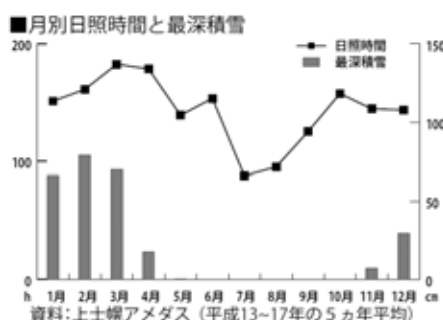
【図 上士幌町の地勢 町勢要覧（2001年10月発行）より】

イ 上土幌町の気象条件

気象状況は、平均値気温 5.4 と全国的にも最も寒冷な地域である。また、寒暖の差が大きく、夏季の最高気温が 30 を超える一方で、冬季には最低気温が - 20 以下まで下がる厳しい気象状況となる。

【上土幌町の地勢、気象状況】

気象状況	平年値気温：5.4	平年値降水量：915mm
	年間最高気温 32.5	最低気温 - 20.7 （市街地 2007 年）
	年間最高気温 30.3	最低気温 - 25.6 （糠平温泉街 2007 年）
	平年値降雪深さ：52cm	平年値日照時間：1,873 時間



上図 上土幌町の地勢 町勢要覧（2001 年 10 月発行）より

ウ 人口世帯数の状況

町の総人口は減少傾向が続いており、1985 年からの 20 年間で 1,813 人減少し、人口増加率は - 25.7% である。特に少子高齢化の傾向が強く、年少人口が 5 割以上の減少率を示しているのに対し、高齢人口は 9 割以上の増加率を示している。

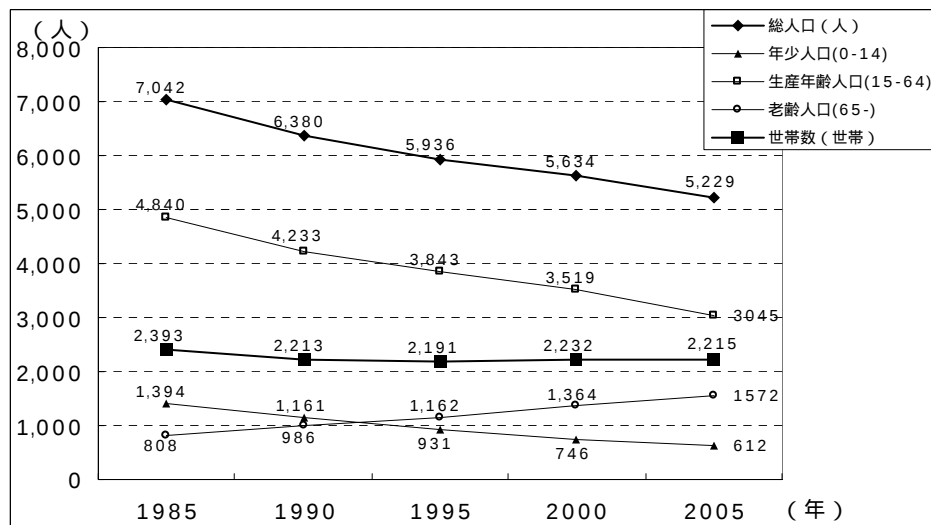
就業人口も、全体的には減少しているが、特に第一次、二次産業就業者数の減少が著しい。

【上土幌町の人口推移】

		1985	1990	1995	2000	2005	増加率
人口推移*	総人口（人）	7,042	6,380	5,936	5,634	5,229	▲ 25.7%
	男性（人）	3,462	3,103	2,861	2,699	2,515	▲ 27.4%
	女性（人）	3,580	3,277	3,075	2,935	2,714	▲ 24.2%
年齢別人口*	年少人口	1,394	1,161	931	746	612	▲ 56.1%
	生産年齢人口	4,840	4,233	3,843	3,519	3,045	▲ 37.1%
	高齢人口	808	986	1,162	1,364	1,572	94.6%
	高齢化率（%）	11.47	15.45	19.58	24.20	30.06	—
世帯*	世帯数（世帯）	2,393	2,213	2,191	2,232	2,215	▲ 7.4%
人口増減	人口増減	- 529	- 662	- 444	- 302	- 407	
就業人口推移*	第一次産業就業者数	1,304	1,158	1,034	921	908	▲ 30.4%
	第二次産業就業者数	873	719	620	557	450	▲ 48.5%
	第三次産業就業者数	1,665	1,534	1,595	1,552	1,416	▲ 15.1%

データは国勢調査より。なお、年少人口は 0～14 歳、生産年齢人口は 15～64 歳、高齢人口は 65 歳～

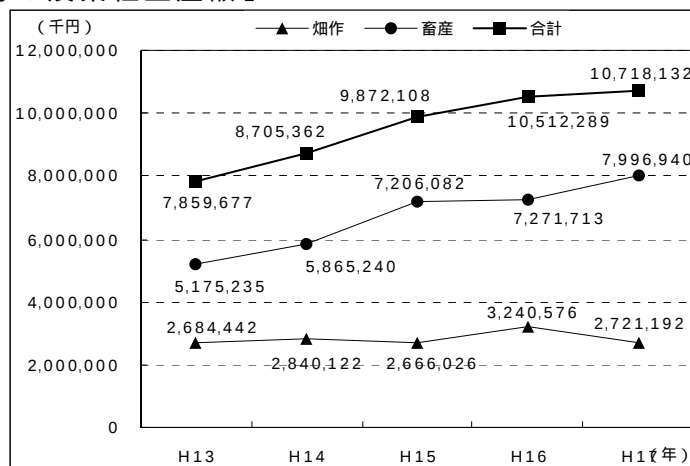
【上士幌町の人口推移】



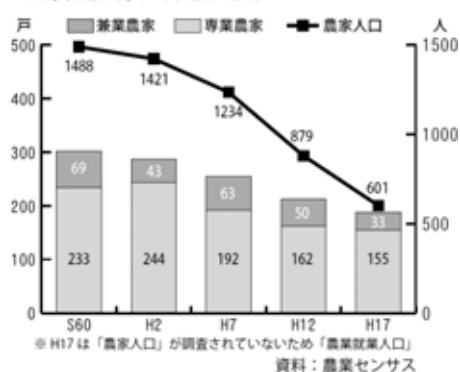
エ 農業の状況

近年、農業粗生産額は増加し、特に畜産の生産額は継続的に増加し続けている。しかし、担い手の減少は著しく、農家人口は最近5年間（H12～17）で約3割減少している。一方で、経営規模の拡大が年々進み、一戸あたりの耕地面積はH12年には41.8haと、北海道全体の平均（20.2ha）、全国平均（2.2ha）を大きく上回る。（H16 北海道農林水産統計年報）

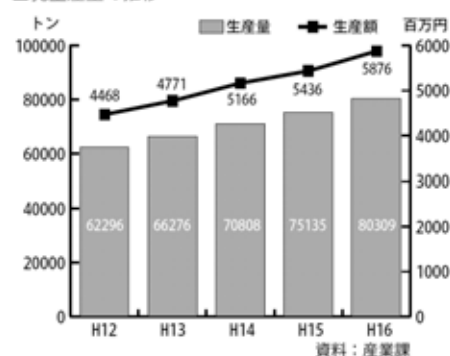
【上士幌町の農業粗生産額】



■農家数と農家世帯員数の推移



■乳生産量の推移



上図 上士幌町の地勢 町勢要覧（2001年10月発行）より

オ 商業の状況

商店数の減少及び商店就業人口の減少が進んでいる。販売額は近年は下げ止まり傾向があるものの、人口減少が続く場合には売り上げも減少していくことが予想される。

■商業の推移

年次	商店数(件)			従業者数(人)			年間販売額(万円)		
	卸売業	小売業	計	卸売業	小売業	計	卸売業	小売業	計
平成6年	10	79	89	45	367	412	99,907	912,226	1,012,133
平成9年	5	81	86	7	344	351	5,600	1,000,455	1,006,055
平成11年	6	76	82	10	319	329	8,910	793,924	802,834
平成14年	8	68	76	26	339	365	43,865	801,253	845,118
平成16年	9	66	75	25	302	327	45,039	803,569	848,608

資料：商業統計調査

上表 上士幌町の地勢 町勢要覧(2001年10月発行)より

カ 観光の状況

観光入込数が減少している。道内客の減少が影響しており、道外客は必ずしも減少してはいない。また、観光客数のうち、日帰り通過者数は維持している一方で、宿泊者数の減少傾向が続いている。宿泊者数の減少は、糠平温泉の大型ホテルの廃業により団体客の受け入れが難しくなっていることが起因しているが、宿泊施設によってはターゲットを個人客向けの滞在型観光にシフトし、観光客の宿泊日数の増加を目指した取組みを始めている。

■観光客入込数の推移

(単位：千人)

年度	観光客入込数(延)			左のうちの区分		宿泊者(延)
	道外客	道内客	計	日帰り、通過	宿泊者(実)	
平成12年度	88.2	430.6	518.8	368.9	149.8	151.3
平成13年度	82.5	382.6	465.1	249.1	216.0	216.0
平成14年度	91.3	365.4	456.7	371.2	85.5	89.7
平成15年度	78.8	315.2	394.0	322.1	72.0	75.6
平成16年度	79.2	279.5	358.7	312.1	46.6	49.0

資料：産業課

上表 上士幌町の地勢 町勢要覧(2001年10月発行)より

キ その他の状況

市街地の住宅地平均地価単価は 4,000 円 / m²と低い。なお、町内には不動産業者はいない。

東京からは飛行機と自動車を利用して 3 時間弱でアクセスできる。時間的にはアクセスが良好であるものの、高額な航空運賃が移動の障壁になっている。また、道内の主要都市とのアクセスも比較的良好で、札幌から約 3 時間半、旭川から約 3 時間、釧路から約 2 時間半である。自家用車による移動の場合には比較的良好なアクセスではあるものの、バスの利用に関しては、便数が少ないことや時間が限られることなど、課題はある。

平均地価	住宅地平均価格 4,000 円 / m ²
交通アクセス	【東京から】羽田—とちち帯広空港：1 時間 30 分 とちち帯広空港から車で 70 分 羽田—とちち帯広空港：¥ 35,300 (片道普通運賃) 【札幌から】車で 3 時間 40 分、列車で帯広まで 2 時間 30 分 【旭川から】車で 3 時間 【釧路から】車で 2 時間 40 分、列車で帯広まで 1 時間 30 分
財政力指数	0.25 財政力指数は、地方公共団体の財政基盤の強弱を示す指数。標準的な行政活動に必要な財源をどれくらい自力で調達できるかを表しており、普通交付税の算定基礎となる基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の 3 ヶ年平均値となる。

2. 上士幌町におけるこれまでの取り組み

(1) イムノリゾート構想

ア 取組の内容

「イムノリゾート上士幌構想」は健康・環境・観光をキーワードに町全体の豊富な地域資源を活かし、その効果を科学的に検証しながら、各々の地域資源について付加価値を高め、都市と農村の共生と対流による地域活性化を図ろうとするものである。

町にスギ花粉がないことに注目し、全国のスギ花粉症で悩む方をターゲットとした「スギ花粉リトリート（疎開）ツアー」を平成 17 年 3 月に実施し、全国からの大きな反響を得た。翌年、平成 18 年は、大手旅行会社（JTB、JAL）から旅行商品として販売された。

その他、ストレスにさらされている東京のビジネスマンを対象に免疫バランス回復効果を森林浴で実証する「イムノヒーリング実証実験・モニターツアー」や地産地消の取り組みとして、野菜生産研究や料理講習会などを実施している。

イムノリゾート（IMMUNO RESORT）

免疫学は immunology、免疫は immunity で、その形容詞に、Immune や Immuno を使用する。日本語ではイミュノ又はイムノと読む。「イムノリゾート」とは、「免疫保養地」という考え方である。アレルギーや花粉症は偏った免疫バランスによって発症する。「環境」「食」「ストレス」のバランスを整えることによって、免疫バランスを是正し、健全にするという意味をこめた造語。

イ 取組のこれまでの実績

スギ花粉リトリートツアー参加者

平成 17 年 13 名（うち同行者 3 名）

平成 18 年 JTB：8 名 JAL：18 名

イムノヒーリング実証実験・モニターツアー参加者：20 名

取り上げられたメディア

【新聞】…日本経済新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、北海道新聞、十勝毎日新聞、ワシントンポスト、ジャパントゥデイなど

【雑誌】…月刊「宝島 3 月号」、セブン & アイ出版「saita 3 月号」、週刊現代 3/18 号、東京メトロフリーペーパー「メトロミニッツ」など

【ラジオ】…大阪毎日放送ラジオ、FM 岡山、FM 相模、東京 TBS ラジオ、FM ノースウェーブ、NHK、HBC など

【テレビ】…日本テレビ、フジテレビ、テレビ朝日、東海テレビ、NHK、UHB、HTB、STV、HBC、TVH など

【インターネット】…Yahoo! JAPAN、MSN Japan、All About など

(2) 北海道「北の大地への移住促進事業」

ア 取組の内容

北海道では、平成 16 年度から、退職時期を間近に迎えていた「団塊の世代」等の「第 2 の故郷探し」の動きを踏まえ、道内の受入体制の整備や道外への情報発信等に集中的に取り組み、首都圏退職者等の本道への移住促進に努めることにより、地域の生活環境の向上や経済活性化等を図るための事業(「北の大地への移住促進事業」(事業主体：北海道、事業年度：平成 16 年度～))を実施してきた。この事業の中で、上士幌町は、14 のパートナー市町村の 1 つとして事業に参画し、北海道ブランドを軸に団塊の世代をターゲットとした首都圏でのプロモーション活動や、生活体験を目的とした北海道長期滞在型生活体験モニターの募集に取り組んでいる。

イ 取組のこれまでの実績

平成 17 年度には、道外からの北海道長期滞在型生活体験モニターを募集したが、参加者の直前のキャンセルにより未実施となった。その際行われた体験用住居の準備等は、本年度の生活体験モニター受け入れ事業の基盤となっている。

移住相談ワンストップ窓口の設置

「北の大地への移住促進事業」をきっかけに町の移住相談ワンストップ窓口には、80 件の問い合わせがあった。(平成 19 年 3 月末までに)

移住ホームページの開設

上士幌町ホームページ内に移住・二地域居住情報ページを立ち上げ情報発信を行っている。これまでのアクセス数は約 5,300 件である。(平成 17 年 6 月～平成 19 年 3 月末)

【移住・二地域居住情報ページの内容】

- ・生活体験モニター募集情報、生活体験モニター参加者の日記公開
- ・ワンストップ窓口の紹介
- ・上士幌町の暮らし情報(住宅団地、農業実習生募集情報、空家情報(作成中)、医療機関、町のお勧めスポット情報など)
- ・上士幌町 Q & A (冬の生活、日常の医療、住居、買物、楽しみ情報の紹介)
- ・既移住者情報(昨年度実施したアンケートヒアリングの結果を利用)

(3) 全国ふるさとフェア

ア 取組の内容

上士幌町は平成 16 年 4 月、都市側の「スピード社会」と農村側の「スローな社会」との共存を目指した全国組織「スロータウン連盟」に十勝管内で初めて、道内では 4 番目の自治体として正式加盟した。糠平温泉街やナイタイ高原牧場、雄大な自然などの地域資源の活用や文化の保存・再生を主眼に、農村側としての役割と特徴を再認識することで、都市側との交流人口増を図ろうと取り組んでいる。

平成 17 年 11 月には全国の物産を集める「全国ふるさとフェア 2005」(横浜市みなとみらい赤レンガ倉庫イベント広場にて開催)に参加し、全国の“ご当地汁物”を集める「汁物対決」(全国スロータウン連盟主催)に、地場産野菜などを具材にした豚汁を地元農協女性部の協力で出品するとともに町の魅力 P R、移住意向アンケートを実施した。

イ 取組のこれまでの実績

2 日間で 800 杯以上の「豚汁」を売り上げた。移住意向のアンケートは 200 票以上を回収し、ニーズを把握できたとともに、非常に効率的な町の P R となった。このような P R 活動を継続的に実施することにより知名度を上げ、上士幌町を訪れてみたいと思わせる取組みが必要であることを確認した。

(4) 生活体験モニターの実入

ア 取組の内容

平成 18 年度、北海道への移住や二地域居住を検討している方を対象に「生活体験モニター」を実施した。

期間：平成 18 年 6 月～ 2 月の間で 1 ヶ月程度
交通費、宿泊施設、光熱水費、生活体験メニュー等にかかる費用は原則モニター負担。住居、最低限の生活備品の整備等は町が実施。

イ 取組のこれまでの実績

モニター数：8 組体験終了

体験中の日記を上士幌町ホームページに掲載している。



【上士幌町ホームページより】

3．現況からみた上士幌町の課題とまちづくりの方向

(1) 人口の減少にともなう地域活力低下への対応

人口の減少に伴う町内消費の縮小、少子高齢化に伴う労働人口の減少や地域活動の縮小などの課題がある。今後、町の活力を維持向上させるためには、定住人口の拡大だけでなく二地域居住などの交流人口の増加が求められる。これまでに町で実施した移住・二地域居住促進に向けた調査等においては、都市住民をターゲットに、情報として町を知ることや、一定期間滞在して町を知ってもらうところから段階的に二地域居住や定住へ展開させることを検討している。

(2) 交流人口の増加に向けた対応

段階的な二地域居住促進にあたっては、きっかけとしての観光客など交流人口の拡大が重要である。ただし、そのターゲットとして想定している首都圏や関西圏などから上士幌町までの距離が離れていることから、移動時間や高額な航空運賃などの物理的な障壁がある他、寒冷地であることによるマイナスイメージなどの問題があり、それらの解消が求められる。航空運賃についてはすぐに解消される問題ではないものの、マイナスのイメージについては密な情報交換による解消ができるものとする。

(3) 情報発信の課題

これまで、「イムノリゾート上士幌構想」のもとで実施した「花粉リトリートツアー」や「イムノヒーリングツアー」、横浜で開催した「ふるさとフェア」への参加、「ワンストップ窓口」やホームページでの情報発信により、都市部へのPRに関しては、一定程度の成果を得ている。今後、上士幌町に定着する人材と出会うための効果的な情報発信を継続的に実施する必要がある。

第3章 調査の概要

1. 基本的な考え方

(1) 調査の目的

上士幌町の地域活力を向上させるためには、都市部からの移住・二地域居住者を増やすことにより、地域の経済活動や文化活動などを活性化することが有効であると考えられる。一方で、これまでのように農村地域からの情報発信だけでは効率的に人を呼ぶことは難しい。

上士幌町の地域活力を向上させるためには、都市部からの移住・二地域居住者を増やすことにより、地域の経済活動や文化活動などを活性化することが有効であると考えられる。一方で、これまでのように農村地域からの情報発信だけでは効率的に人を呼ぶことは難しい。

そこで、本調査では、上士幌町と都市部の企業との連携により、地域の課題の解消と都市住民のニーズへの対応を両立するシステムを構築する。都市部の企業等の協力により都市住民を一定期間上士幌町に受け入れ、町の魅力や生活を体験してもらいながら、ライフスタイルとしての上士幌町における二地域居住や、上士幌町の受け入れ体制の課題や可能性を検証するとともに、上士幌町と都市部企業との連携システムの可能性について検証することを目的とする。

【調査の概念】

地域の課題：人口減少、少子高齢化、観光客の減少などによる地域活力の低下
目指す地域像：都市と農村の共生・対流による地域の活性化
(都市部からの移住、二地域居住の増加による地域の経済、文化、活動の活性化)

課題を解消し、目指す地域像を実現するために

地域と都市部との連携による人材の誘致の実験

- ・連携のシステムづくり
(民間企業の福利厚生としての社員送り出し、
会員制リゾートクラブからのアクティブシニアの送り出し)
- ・受け入れ体制づくり
- ・受け入れの実施

都市と上士幌町の共生・対流のシステム検証

- ・共生・対流のシステムの可能性、課題の検証
- ・ライフスタイルとして移住、二地域居住、長期滞在の可能性、課題の検証
- ・人材交流の阻害要因とその解消方法検証
- ・受け入れ側の体制づくりと今後の取組みの確認

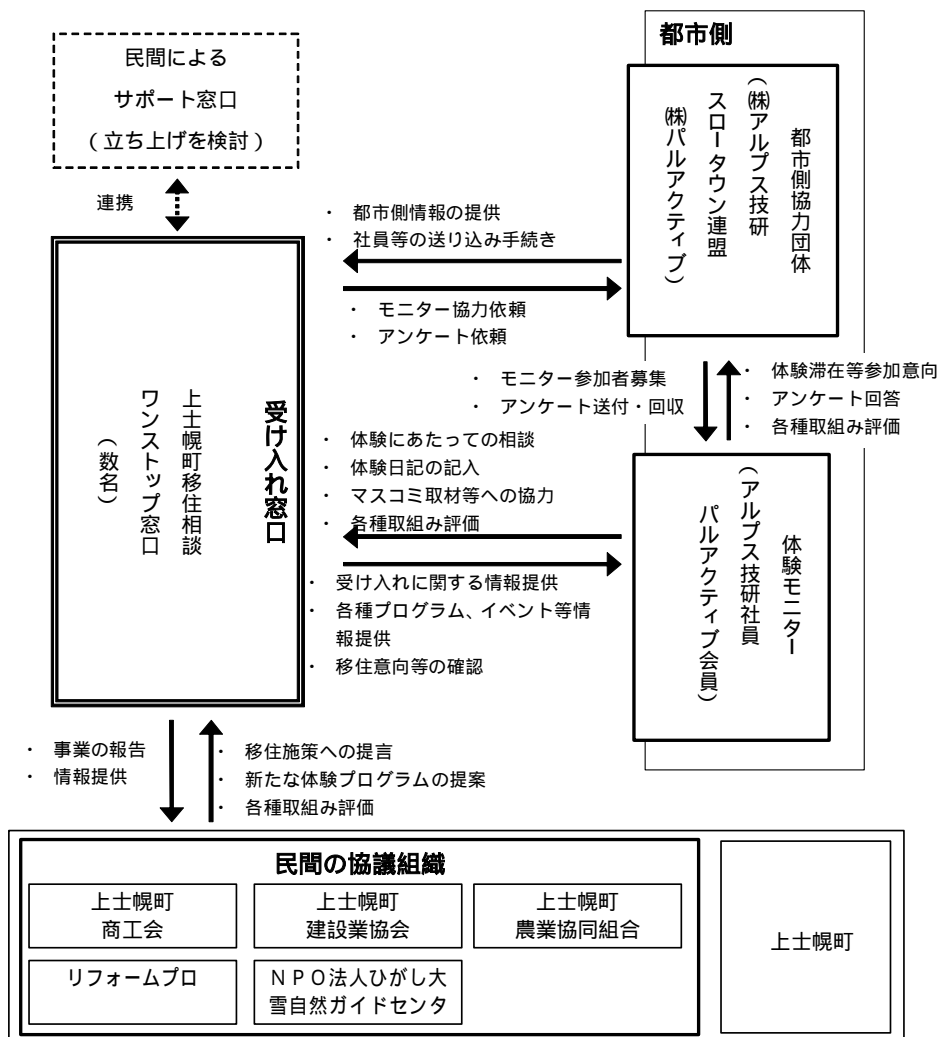
(2) 上士幌町における共生・対流システムのモデル

ア モデルの概要

今回の調査を通して実現を目指す、都市と上士幌町の共生・対流のシステムは、特定のターゲットとの長期的、反復的な交流である。団塊の世代を中心とした層をターゲットとすることから、今回は上士幌町と以前から関係のあった株式会社アルプス技研及びスロータウン連盟と、そこからの紹介による株式会社パルアクティブの3団体の協力のもと、上士幌町との連携システムを構築する。

団塊世代の大量退職の時期が迫っているという時代的な背景から、今回は団塊の世代を中心とした層を生活体験モニターのターゲットとしており、アルプス技研からは、企業の福利厚生として40、50代社員を中心に募集をかけ上士幌町での生活を体験させる。また、パルアクティブは、会員制リゾートクラブを運営している関係から、定年前後のアクティブシニア層の会員との繋がりがあることから、会員へのサービスの一環として生活体験に関する情報提供を行い、会員に上士幌町での生活を体験させる。

移住定住や二地域居住、長期滞在の定着に向け、都市住民の新しい生き方・暮らし方のニーズと、町の取組みをマッチングさせるための仕組みづくりとして、都市住民の受け入れ相談から滞在中の生活全般にわたる相談窓口づくりや、町と町内の協力企業・団体や都市側協力団体との連携システムを構築し、計画—実行—評価—改善のサイクルを確立することを目指す。



イ 各主体の役割と連携による効果

(ア) 受け入れ窓口

受け入れ窓口は、「上土幌町移住相談ワンストップ窓口」が担う。連携システムの中核を担う組織として、モニターへの対応や、都市側協力団体や民間の協議組織との協議を行う。都市側協力団体や民間の協議組織との連携により、受け入れ窓口からの一方的な情報発信に比べはるかに効果的なモニターの募集が期待でき、さらに新たなビジネスを創出して町の経済・文化等活動が活性化することを期待する。

(イ) 民間の協議組織

民間の協議組織は受け入れ窓口への政策提言や事業の評価を行う。組織する主体は町内の事業者等であり、今回の事業への参加による受け入れ窓口との迅速な情報交換は、移住・二地域居住に関連する新たなビジネスを進めるに当たってのメリットとなる。

(ウ) 都市側協力団体

都市側協力団体は、ワンストップ窓口からの募集情報を自らの社員や会員に発信し、モニターの参加を受け付ける役割を担う。社員や会員へ、田舎暮らしや一時的な滞在によるリフレッシュの機会を与えることや、第二の人生としての移住や二地域居住のきっかけを与えられることで、社員の福利厚生や会員サービスの満足度が高まることを期待する。

2 . 生活体験の内容

(1) 生活体験の対象、期間等

ア 民間企業の福利厚生としての社員送り出し

アルプス技研の現役社員を対象に、上士幌町での短中期滞在の生活体験モニターを実施する。企業の福利厚生施策として、社員が上士幌町で一定期間滞在し、リフレッシュして帰ることが狙いである。アルプス技研総務部を都市側の窓口として、社員への情報提供や問い合わせへの対応、補助の受け渡し等で上士幌町役場のワンストップ窓口と協力しながら事業を進める。

対象	40～50代社員が主な対象
参加条件	将来、北海道への移住や二地域居住をお考えの道外在住の方。 簡単な日記の記入、アンケート調査、マスコミ取材等にご協力頂ける方 ホームページへの日記及び写真掲載、調査データ等の活用に対する承諾を頂ける方。
受け入れ期間	平成18年10月から平成19年2月末
滞在日数	2泊3日～1週間程度
情報提供	全社員を対象にアルプス技研ホームページで体験モニターの周知 50代社員を対象に、詳細な案内を郵送 40代社員を対象に、詳細な案内を郵送 全社員を対象に詳細な案内をメールで送付 冬期間の楽しみメニューをメールで送付
補助	交通費、宿泊費、レンタカー費、体験メニュー費を補助 アルプス技研共済会からの補助を加え、参加者は出発地に関係なく2万円の負担

参考：株式会社アルプス技研会社概要（ホームページより）

商号	株式会社 アルプス技研
設立	1971年1月（創業1968年7月）
資本金	23億36百万円（2006年12月末現在）
売上高	連結205億36百万円／単体172億77百万円（2005年12月期）
従業員	連結2,765名／単体2,446名（2005年12月末現在）
事業内容	技術者の派遣事業 技術プロジェクトの受託事業（開発、設計、試作、製造、評価）
事業所	▼本社 神奈川県相模原市 ▼営業所 全国27拠点 札幌営業所（札幌市）、仙台営業所（仙台市）、北上営業所（北上市）、山形営業所（山形市）、郡山営業所（郡山市）、いわき営業所（いわき市）、新潟営業所（新潟市）、前橋営業所（前橋市）、熊谷営業所（熊谷市）、宇都宮営業所（宇都宮市）、大宮営業所（さいたま市）、東京営業所（港区）、千葉営業所（船橋市）、相模原営業所（相模原市）、立川営業所（立川市）、厚木営業所（厚木市）、横浜営業所（横浜市）、松本営業所（塩尻市）、長野営業所（千曲市）、諏訪営業所（諏訪市）、甲府営業所（甲斐市）、名古屋営業所（名古屋市）、浜松営業所（浜松市）、大阪営業所（大阪市）、広島営業所（広島市）、福岡営業所（福岡市）、熊本営業所（熊本市） ▼開発製造拠点 蓼科テクノパーク（茅野市）宇都宮テクノパーク（矢板市）
グループ会社	▼国内 株式会社アルプスビジネスサービス 株式会社アルネス情報システムズ 株式会社エムテーシー ディスクウェア株式会社 ▼海外 阿爾卑斯科技（北京）有限公司（中国）

イ クラブ会員へのサービスとしての会員送り出し

パルアクティブのクラブ会員を対象とした、上士幌町での中長期滞在の生活体験モニターを実施する。会員サービスの一環として上士幌町での生活体験の参加者を募集する。パルアクティブクラブ運営事業部クラブ事務局を都市側の窓口として、会員への情報提供や問い合わせへの対応、補助の受け渡し等で上士幌町役場のワンストップ窓口と協力しながら事業を進める。

対象	パルアクティブクラブ会員：約 9,000 名を対象
参加条件	将来、北海道への移住や二地域居住をお考えの道外在住の方。 簡単な日記の記入、アンケート調査、マスコミ取材等にご協力頂ける方 ホームページへの日記及び写真掲載、調査データ等の活用に対する承諾を頂ける方。
受け入れ期間	平成 18 年 10 月から平成 19 年 2 月末
滞在日数	2 泊 3 日～1 週間程度
情報提供	全クラブ会員を対象にパンフレットを送付して体験モニターの周知 問い合わせのあった方に詳細な資料を送付 会報誌に募集記事を掲載
補助	交通費、宿泊費、レンタカー費を補助

参考：株式会社パルアクティブ概要（ホームページより）

名称	株式会社パルアクティブ
設立	1989 年 11 月
資本金	9,600 万円
年商	平成 15 年 26 億 5 千 7 百万円 平成 16 年 35 億 1 千万円 平成 17 年 44 億 7 千万円
従業員	本社 / 94 名 ホテル / 185 名 （平成 17 年 7 月現在）
事業内容	事業内容 ホテル・旅館の運営 / 管理 （直営ホテル（1 泊 2 食付）58 ケ所、直営コンドミニアム（素泊まり）80 ケ所） 会員制リゾートクラブの運営、リゾート会員権の販売 （会員数 9,219 人）
事業所	本 社 東京都新宿区 支 店 大阪支店 東京支店

(2) 体験モニター募集の流れ

体験モニター募集にあたっては、以下の流れでターゲットへの周知、参加受付、問い合わせ対応、参加者決定を行う。ワンストップ窓口と都市側協力団体との役割分担を行い連携してモニターへの対応を行う。

体験モニター募集等の流れ	作業内容	
	ワンストップ窓口	都市側協力団体
体験モニターの実施 PR アルプス技研社員：ホームページ、メールにて PR パルアクティブ会員：チラシにて PR	チラシ等の作成	ホームページでの公開、メールでの発送、チラシの郵送
募集要項、申し込み用紙、アンケートの送付 アルプス技研：50代社員 53名 パルアクティブ会員：問い合わせのあった方	—	募集要項、申込用紙、アンケート用紙郵送配布
参加に関する問い合わせ受付 (メール、FAX、電話)	生活体験、申込み手続き、現地情報、アンケート問い合わせ対応	—
参加申し込み、申し込み用紙、事前アンケート回収	申し込み用紙、アンケート回収(パルアクティブ分) (メール、FAX、郵送)	申し込み用紙、アンケート回収(アルプス技研分) (メール、FAX、郵送)
参加決定 (日程、住居、交通手段決定)	参加条件の確認、参加者選定	—
滞在プラン検討 (日程、住居、交通手段確認、体験メニュー等各種問い合わせへの対応)	相談受付(メール、FAX、郵送)、宿泊滞在先、レンタカーの手配、保険の手配	—
生活体験	現地での対応、空港 - 上士幌町間の送迎、各種体験の手配	—
体験後アンケート	補助の支払い	アンケート回収(書面、メール)、補助の申請

(3) 受け入れ体制づくり

ア 受け入れ体制づくりの概要

体験モニター実施にあたり、参加者の相談窓口、住居、移動手段、体験メニューの用意を行う。以下にその内容を示す。

検討項目	作業内容
受け入れ窓口	・ 窓口担当者の確保 ・ 場所の確保 ・ 役割の確認
滞在住居	既存住宅の利用準備 ・ 住宅の確保 ・ 生活備品（家具、布団、食器等）の確保 ・ 滞在料金の設定 ・ 保険の確認
	ホテル、旅館、ペンションの利用 ・ ホテル、旅館、ペンションへの協力依頼 ・ 宿泊料金の設定依頼
移動手段	レンタカー ・ 町内レンタカー会社への協力依頼 ・ レンタカー料金の交渉
	ワンストップ窓口による送迎
体験メニュー	・ 既存の体験メニューの確認 ・ 各メニュー実施体制の確認、担当者の確認 ・ 各メニュー実施可能時期、体験料の調整
その他	・ オリエンテーションのメニュー作成 ・ アンケート調査への対応依頼 ・ 町内病院等医療機関の確認 ・ 傷害保険の申請 ・ 緊急時の連絡先確認

イ 受け入れ窓口の体制と役割

(ア) 受け入れ窓口

今回の体験モニターにおいては、モニター受け入れの窓口を上士幌町役場(企画課) 移住相談ワンストップ窓口が担い、事業の統括、ターゲットへの情報提供、相談対応、体験メニュー等の手配、都市側協力団体との調整などを行う。

(イ) 役割

- 参加希望者からの相談受付
- 参加予定者と事前に滞在プラン相談
- 参加者への体験メニュー等の情報提供、メニューの手配
- 参加者の移動手段確保
- 町内の協力団体、都市側協力団体との調整

ウ 体験メニュー

以下に示す体験メニューを用意し、参加者への情報提供及び参加の手配を行う。

名称	内容・金額・実施時期
廃線の国鉄士幌線アーチ橋見学ツアー	【内容】北海道遺産旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋群を車にて移動しながらポイントウォッチングしていくツアー。主に幻の橋タウシュベツ川橋梁や第5音更、第6音更橋、幌加駅跡を巡る。(所要時間2時間) 【参加費】大人2,600円、小学生1,500円(税込み) 【実施時期】4月29日～10月下旬予定
エコレール体験付きアーチ橋ツアー	【内容】タウシュベツ川橋梁などのアーチ橋を見学後、かつての旧国鉄士幌線跡を足漕ぎトロッコ「エコレール」での乗車を体験する。(所要時間2時間) 【参加費】大人3,500円、小学生2,400円(税込み) 【実施時期】10月31日までの毎日
カナー体験	【内容】初心者でも安心して乗れるカナディアンカナーを用い、スタッフの指導のもと糠平湖でカナーを体験する。(所要時間1時間15分) 【参加費】大人(中学生以上)2,500円、子供2,000円(税込み) 【実施時期】10月まで
リース作り教室	【内容】自然素材を使い、デザインを工夫してオリジナルリースをつくる体験。(所要時間2～3時間) 【参加費】2,100円(材料費込み) 【実施時期】通年
森の香水作り～フレグランスウォーター作りに挑戦！	【内容】大雪山に多く自生する「トドマツ」という針葉樹を使い、香水を作る。手軽なアロマセラピーが体験できる。(所要時間1.5～2時間) 【参加費】1,600円 【実施時期】通年
ワカサギ釣り体験	【内容】糠平湖が全面結氷する厳冬の風物詩であるワカサギ釣りの体験。湖上から仰ぐ景色を楽しみながら、厚さ50センチを超える氷に穴をあけて釣りをする。スタッフによる案内があるので、初めてでもOK。 【参加費】大人3,150円、小学生1,500円(税込み、釣り具一式レンタル料、ガイド料込み) 【実施時期】1月～3月
ネイチャースキー	【内容】歩くスキーを使い、ガイドの案内のもとに、冬の森を体験する。(所要時間3時間) 【参加費】大人2,600円、小学生2,000円(税込み、歩くスキーレンタル料込み) 【実施時期】12月下旬～3月下旬
スノーシューハイク	【内容】スノーシュー(西洋かんじき)をはいて、ガイドの案内のもとに、冬の森を体験する。スキーが苦手な方でも安心な体験(所要時間3時間) 【参加費】大人2,600円、小学生2,000円(税込み、スノーシューレンタル料込み) 【実施時期】12月下旬～3月下旬

名称	内容・金額・実施時期
ゴルフ	【内容】ナイト高原牧場の裾野に広がる自然豊かな上士幌ゴルフ場でのゴルフ体験。2つのコースはそれぞれパワーと正確さを要求される変化に富んだコース。 【実施時期】11月上旬まで
パークゴルフ	【内容】町内の公園数箇所ではしゃぐパークゴルフの体験。ゴルフよりもやや大きなボールを使用し、初心者でも楽しめる十勝生まれのスポーツ。 【参加費】料金無料（用具も貸し出しも有） 【実施時期】11月上旬まで
湖・川釣り	【内容】糠平湖や音更川などでのマス釣り体験。 【参加費】糠平湖での釣りには釣魚料¥600 【実施時期】11月上旬まで
山菜きのこ採り	【内容】季節ごとに山菜やきのこ採りの体験。 【実施時期】11月上旬まで
熱気球体験	【内容】熱気球の搭乗が体験できる。最も手軽なメニューとしては、糠平温泉での地上からロープを張った係留搭乗がある。早朝、上空30～40mまで上がり、空からは温泉街やウペペサンケ山、糠平湖などが望める。 【参加費】大人 1,000 円 小学生 700 円 【実施時期】5月上旬～10月上旬
航空知識学習及び、ヘリコプター体験操縦	【内容】上士幌町での移住生活体験期間中に、生涯学習として航空知識を学び、ヘリコプター体験操縦まで行うことができる体験メニュー。 講義 合計12時間、操縦 合計1時間（30分間 2回） 【参加費】 講義受講（教材資料を含む）45,000 円（消費税込） 体験操縦料 55,000 円（消費税込） 合計 100,000 円（消費税込） 【実施時期】4週間で講義から体験操縦まで
定住促進住宅地（みなみ野団地）を見学	【内容】役場ワンストップ窓口が市街地の定住促進住宅地を案内する。 【実施時期】通年
スキー	【内容】糠平温泉スキー場でパウダースノーを体験。 【実施時期】12月下旬～3月下旬
温泉めぐり	【内容】糠平温泉や幌加温泉で源泉100%かけながしの温泉を楽しむ体験。湯めぐり手形を購入すると糠平温泉街の3軒の宿の温泉を楽しむ。 【参加費】日帰り入浴 500 円～700 円、湯めぐり手形 1,200 円 【実施時期】通年

エ 居住地

参加者の居住地は、町内の教職員住宅、企業の社宅及び、ホテル・旅館を利用する。

(ア) 町内市街地及び農村地区の教職員住宅（３棟）と民間企業社宅（２棟）

公営の教職員住宅の他、町内企業の協力を得て、社宅を借りて利用することとした。

- ・バス、トイレ付き（水洗あるいは簡易水洗）
- ・上士幌町が用意する生活備品
テレビ、布団、冷蔵庫、炊飯器、洗濯機、食器類、ガス台、ストーブ（冬期）、カーテン、テーブル（インターネット環境、電話は無し、連絡は体験モニターの携帯電話を利用）
- ・家賃は一組１ヶ月 35,000 円から 45,000 円（光熱水費含む）。滞在日数に応じて日割り計算。

【使用する住宅の概要】

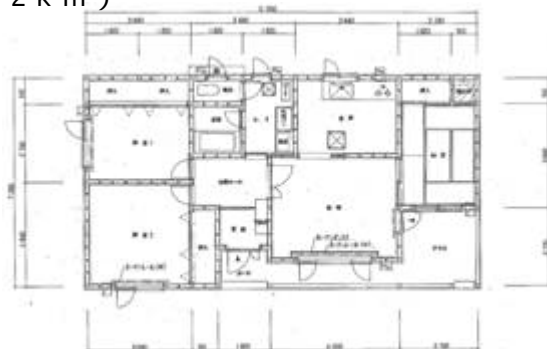
01 教職員住宅２棟（上士幌町市街地）



02 教職員住宅（農村地区）



03 民間企業社宅２棟（上士幌町市街地より 2 k m）



(イ) 市街地及び糠平温泉(山間部)のホテル・旅館・ペンション(4館)

町内のホテル、旅館、ペンションの協力を得て、生活体験用の料金設定をしている。

- ・ 料金は一人一日 3,800～12,000 円
- ・ 食事の有無については要相談

【使用するホテル旅館の概要】

04 さかた旅館(上士幌町市街地)

市街地の中心部に位置し、アクセス性が高い。

【料金(1様)】

【1泊2食】5,600 円【1泊夕食】4,800 円

【1泊朝食】4,600 円【素泊り】3,800 円

写真：さかた旅館 HP より <http://www8.ocn.ne.jp/~sakata>



05 糠平館観光ホテル(糠平温泉街)

糠平温泉で一番大きなホテル。

【料金(1名)】

【1泊2日～5泊6日】9,450 円

【6泊7日～19泊20日】8,400 円

【20泊21日以上】7,350 円

写真：糠平館観光ホテル HP より <http://www4.ocn.ne.jp/~nukakan/>



06 富士見観光ホテル中村屋(糠平温泉街)

糠平周辺で採れた山菜や野草中心の創作料理が食べられる。

【料金(1名)】

【1泊2日～14泊15日】9,000 円
～12,000 円

【20泊21日以上】7,000 円
～10,000 円

写真：富士見観光ホテル中村屋 HP より <http://www3.ocn.ne.jp/~fujimi/>



07 ペンション森のふくろう(糠平温泉街)

糠平温泉で最も新しい宿。糠平の山菜、川魚、道産の海の幸を使った家庭料理が楽しめる。

【料金(1名)】

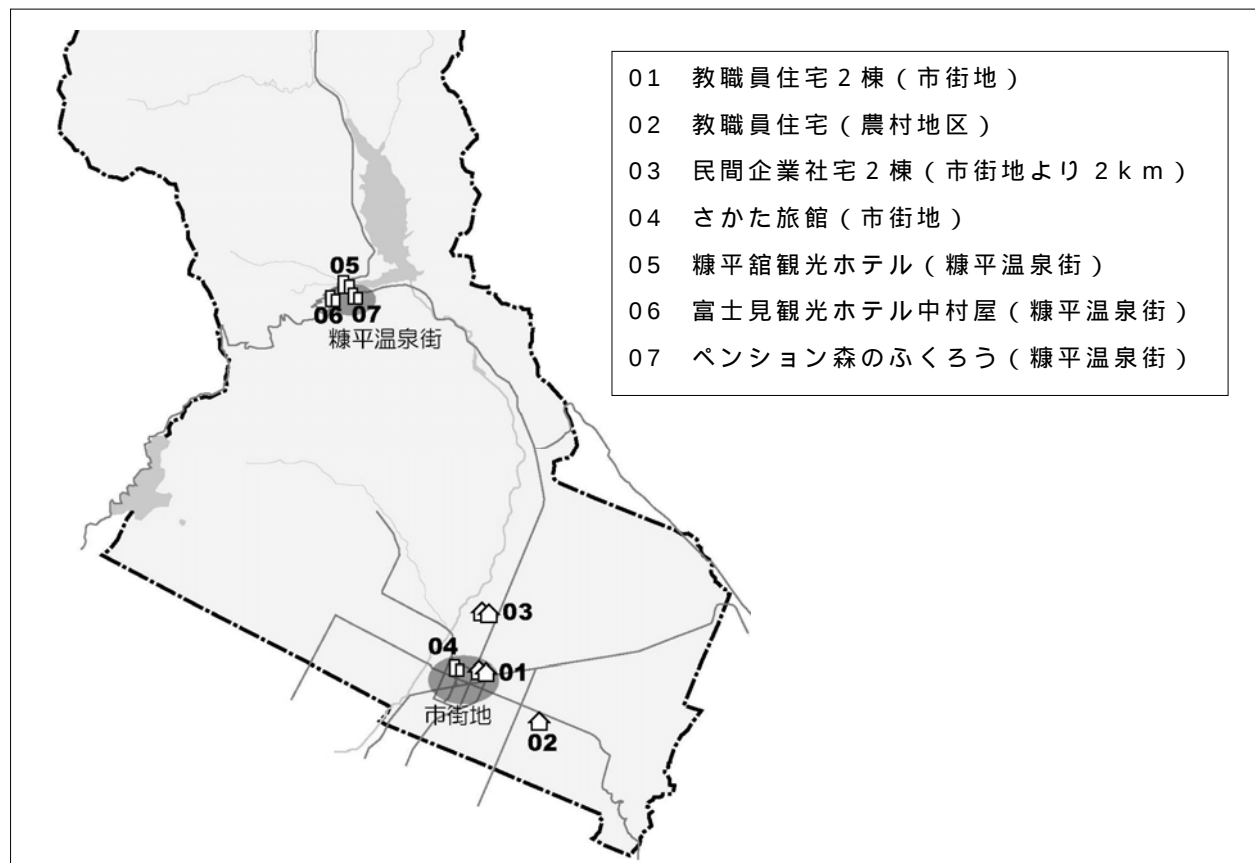
【1泊2日～13泊14日】6,000 円

【14泊15日以上】5,500 円

写真：ペンション森のふくろう HP より <http://www5.ocn.ne.jp/~mfukurou/>



【居住地分布】



オ 移動手段

(ア) 上士幌町までの交通手段

発地から上士幌町までの交通手段としては、飛行機、フェリー、電車など体験モニターが任意の交通手段を選び利用する。なお、これらの交通手段はモニター自身で手配する。

(イ) 町内業者のレンタカー

生活体験中の移動手段として、希望者には大手レンタカー会社よりも安価に利用できる町内のレンタカー業者を紹介する。

	利用料金
バンタイプ	月借り 月々 47,250 円 (税別)
	日借り 1 日 3,150 円 (税別)
普通乗用タイプ	月借り 月々 67,725 円

(ウ) ワンストップ窓口による送迎

行き帰りの交通手段として、帯広空港及び JR 帯広または新得駅と上士幌町間はモニターの希望に応じて、ワンストップ窓口が自動車での送迎を行う。

(4) 都市側協力団体との連携

ア 参加希望者への情報提供

アルプス技研、パルアクティブそれぞれが情報発信を行い、参加者の募集を行う。
詳細を以下に示す。

アルプス技研	パルアクティブ
・全社員を対象にアルプス技研ホームページで体験モニターの周知 ・50代社員を対象に、詳細な案内を郵送 ・40代社員を対象に、詳細な案内を郵送 ・全社員を対象に詳細な案内をメールで送付 ・冬期間の楽しみメニューをメールで送付	・全クラブ会員を対象にパンフレットを送付して体験モニターの周知 ・問い合わせのあった方に詳細な資料を送付 ・会報誌に募集記事を掲載

イ 打合せ、委員会での検討

アルプス技研、パルアクティブとワンストップ窓口との打合せ及び会議を計10回開催した。詳細を以下に示す。

日時、場所	打合せ内容
3月 アルプス技研との打合せ (於アルプス技研本社)	・事業への協力依頼 ・会社のニーズ、対象者の選定、社員の休暇について協議
3月 アルプス技研との打合せ (於アルプス技研本社)	・事業の説明 ・上士幌町について説明
5月 アルプス技研との打合せ (於アルプス技研本社)	・スケジュールについて、対象者について、体験メニューについて、情報提供資料について協議 ・アンケート、ヒアリングについて
8月 アルプス技研との打合せ (於アルプス技研本社)	・補助について、料金について、情報提供について、日程について、保険について協議
10月 アルプス技研との打合せ (於アルプス技研本社)	・経費支払いの流れ等、情報発信、PRについて協議
10月 第一回実施委員会 (於上士幌町役場)	・体験モニターの概要 ・進捗状況について
11月 パルアクティブとの打合せ (於パルアクティブ本社)	・途中経過について説明 ・追加募集、情報発信について協議
1月 アルプス技研との打合せ (於アルプス技研本社)	・途中経過について、冬の体験について、今後の予定について協議
1月 パルアクティブとの打合せ (於パルアクティブ本社)	・PRについて、今後の取組みについて協議
3月 第2回実施委員会 (於上士幌町役場)	・体験モニターの結果報告 ・今後の展開について協議

(5) 民間の協議組織立ち上げ

本調査を契機に上士幌町の各種団体による協議組織を立ち上げ、今回の生活体験についての意見交換を行う。協議組織は本調査後も受け入れ窓口への政策提言や事業の評価を行うための組織として活動するものである。

ア メンバー

民間の協議組織立ち上げに向け、以下の組織へ会議への参加を呼びかけた。最終的には、この内の5団体により「上士幌町交流と居住を促進する会」を立ち上げた。

【参加を呼びかけた団体】

上士幌町商工会、上士幌町建設業協会、上士幌町農業協同組合、上士幌町観光協会、糠平温泉旅館組合、ニュービジネス研究会、リフォーム・プロ
NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター、NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会
現段階では「上士幌町交流と居住を促進する会」への参加を見合わせた組織

イ 会議の開催

以下の日程で民間協議組織の会議を開催し、組織設置の目的や地域の魅力づくりについて議論を重ねた。

	内容
第一回会議 (9 月)	・ 協議組織設置の目的説明 ・ 体験モニターの説明 ・ 移住・二地域居住促進の取り組みについて
第二回会議 (1 月)	・ 協議組織設立の趣旨 ・ 体験モニターの進捗 ・ 地域の魅力向上のための方策に関する事例紹介 ・ 民間サポート組織立ち上げに向けた事例紹介
第三回会議 (3 月)	・ 協議組織設置目的の確認 ・ 今後の協議組織での事業計画

(6) 評価・検討

体験モニターを対象として、事前、事後アンケートを実施し、生活体験に期待することや参加のきっかけ、生活体験の満足度や移住意向について把握する。

ア 生活体験モニターの意向把握

(ア) 事前アンケート

事前アンケートは、参加を申し込んだ方がどのような意向を持つのかを確認することを目的として実施する。体験前にワンストップ窓口とモニターが直接電話やメールでの体験中のプランについて協議する際は、アンケート結果を手がかりとする。

項目	内容
生活体験について	・ 今回の生活体験に参加を希望する理由 ・ 滞在期間中、どのような日々を送ってみたいか ・ 今回の生活体験に参加するにあたり心配なこと ・ 会社の福利厚生施策、会員サービスとして都市と農山漁村交流の取り組みで、今後、何か期待する施策
移住意向について	・ 現時点で移住をどの程度考えているか ・ どのようなかたちでの移住を考えているか ・ 実際に移住する場合、どのような制約や不安、問題点があるか ・ 移住先を選ぶ際に、どのような点を気にするか
その他	・ 今回の生活体験モニターに期待することや、移住施策に関する要望など

(イ) 事後アンケート

事後アンケートは、本体験モニターにおける住居や食事、体験メニューなどについての満足度を検証すること、今後、体験滞在を実施するにあたっての課題を抽出すること、さらに上土幌町を体験した都市住民の認識として、定住・二地域居住に向けた具体的な課題を把握することを目的として実施する。

項目	内容
生活体験について	・ 生活体験の満足度 ・ また、生活体験に参加したいか
住居(ホテル・旅館) について	・ 住居(ホテル・旅館)の満足度、良かった点、良くなかった点 ・ 住居(ホテル・旅館)の家賃(宿泊料金)について ・ 今後の体験滞在で希望する住居形態 ・ その他意見
体験メニューにつ いて	・ 体験メニューの満足度、良かった点、良くなかった点 ・ その他意見
食事について	・ 食事の満足度、良かった点、良くなかった点 ・ 外食の頻度、店、メニュー ・ その他意見

項目	内容
交通手段について	・ 自宅から上士幌町までの移動についての感想 ・ 町内での交通手段とその感想 ・ その他意見
ワンストップ窓口について	・ ワンストップ窓口の対応について感想 ・ その他意見
情報について	・ 今回の生活体験で新たに知ったこと ・ 今後希望する情報
その他	・ 地元の方との交流 ・ 交流のきっかけ、印象 ・ 経費
移住・二地域居住の意向	・ 上士幌町への移住・二地域居住意向 ・ 移住時期、移住形態（完全移住、季節移住など） ・ 移住・二地域居住にあたっての制約や不安 ・ 移住・二地域居住先の選定基準
その他	・ 上士幌町の印象、移住施策についてなど

イ 受け入れ側意向把握

民間の協議組織会議、実施委員会、及び個別に実施するヒアリングを通して移住・二地域居住及び協議組織立ち上げについての各団体の意見を把握する

ウ 送り出し側への意向把握

打合せや実施委員会を通して今回の上士幌町との連携及び次年度以降の連携についての意見を把握する。